

和と白干潟通信

愛して、わじろ



No.156

2026年1月13日
発行: 和と白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel.092-606-0012
<https://wajirohigata.sakura.ne.jp/>



きりえ「ミヤコドリ飛翔」：くすだひろこ

明る未来へ！

★ 新年 おめでとうございます！！ ★

昨秋も「第37回和と白干潟まつり」を開催できて、本当に良かったです。約480名の参加があり、楽しく過ごすことができました。11月なのにまだ暖かくて、越冬するカモの飛来がまだ少なかったですが、ミヤコドリは何と過去最高数の41羽が飛来しました。昨夏の猛暑でアオサが弱って、発生が少なかったです。コメツキガニはたくさんいますが、アサリは減少しているようです。干潟の環境悪化が心配です。

和と白干潟を守る会の環境保全活動は38年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けることができました。大切な和と白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和と白干潟まつり、クリーン作戦、鳥類調査、水質・砂質調査、和と白干潟通信やパンフレットの発行、ホームページでの広報などの多くの活動をしてきました。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けましょう！

「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和と白干潟の保全4グループと個人が連携して、立花山から和と白干潟の集水域保全活動を続けています。2026年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。38年目の今年も、和と白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。これ以上自然を破壊する開発をやめて、希望ある明る未来を皆で作っていきましょう！

2026年1月 和と白干潟を守る会 代表 山本 廣子



第37回和白干潟まつり（11月23日）



第37回和白干潟まつりはお天気が良くて暖かく、楽しいお祭りになりました。約480名の参加でした。子どもたちが多く参加していて、嬉しかったです。ミヤコドリは過去最高羽数の41羽になりました。マリンワールドのお魚水槽やタッチプールは人気でした。バードウォッチング、植物観察、自然遊びなどにもたくさん参加いただきました。食べ物の出店もあり、手作り品の出店が多くありました。ステージではコーラスや子どもたちも参加した「わらべ歌」で歌ったり踊ったりして、楽しい時間を過ごしました。特に「手をつないで」は干潟の前で参加者の帯ができて、楽しく和白干潟を守る心が共有できました。反省会、後片付けなど最後まで力を合わせて頑張りました。今年も和白干潟まつりができて、良かったですね。第1回から共催や協賛いただいている団体に感謝いたします。事前の会場整備では（株）環衛サービスの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。（実行委員長：山本 廣子）



●開会式

第37回和白干潟まつりを山本代表が開会し、37回続けられたことを祝いくす玉を割りました。続いて田浦さんがラムサール宣言をしました。



●バードウォッチング

日本野鳥の会の菊水講師が絵本で説明した後、望遠鏡で野鳥を27種確認しました。お子さんから高齢の方まで45名が熱心に観察しました。



●自然あそび

堀講師指導で自然界での「保護色や擬態」をテーマに、カモフラージュのゲームなどを39名のお子さんから大人までが楽しまれ、好評でした。



●植物観察

野村講師指導で植物20種を観察。ウラギク、ハマボウなど絶滅危惧種も多く、13名の参加者は熱心に質問し、和白干潟の重要性を実感していました。



●干潟の生きものの観察

参加者34名が周囲にいるカニや貝を次々に藤井講師に持ってきては、楽しそうに説明を受けていました。特にカニの持ち方講座が大人気でした。



●お魚水槽とタッチプール

マリンワールドからキスやヒイラギの魚やヒトデ、ヤドカリ、ムラサキウニの展示があり、ヒトデとウニは実際に触れることが出来ました。



●干潟のうた合唱団

和白干潟を守る会のメンバーを中心に、オリジナル曲「ミヤコドリ」「和白の春」の2曲を、参加の皆さんと一緒に合唱しました。



●紙芝居

くすだひろこ作の絵本「ひがただいすき」の紙芝居。子どもたちも話に引き込まれ聞き入っていました。



●ギター弾き語り

自然あそびの堀講師がギターを弾き、「手のひらを太陽に」など5曲を歌いました。懐かしい名曲ばかりで、皆さん楽しめました。



●東部子ども劇場

東部子ども劇場の大人と子ども達で「わらべ歌」などを歌って踊りました。



●エプロンシアター

エプロン上に、和白干潟の手作りの生き物が、潮の干満に合わせて現れます。干潟の営みが見られました。



●マジックショー

4名のマジシャンが得意のマジックを披露。和白干潟のマジックもありました。



●一言アピール

和白干潟まつりに参加された8団体が、自分達の活動についてのあつい想いをアピールしました。



●手をつないで

子ども22名大人37名で手をつなぎ、和白干潟に向かって「海」などを踊りながら歌いました。



●写真展・パネル展

和白干潟の鳥たちなどの自然アルバムや、山・川・海の流域会議の活動の写真を展示しました。



●模擬店・バザー

13店出展。弁当やサンドイッチ、バーガーや豚汁、コーヒーなど。今年は花苗や花かごも加わりました。



●その他のブース

ワークショップや各種展示、和白干潟の鳥の絵本や缶バッジなど興味深いものが見られました。

★ 第37回 和白干潟まつりラムサール宣言 ★ (抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に対し「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請の方針を定め、具体化に向けて早急に取り組むことを求めます。それと同時に、和白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを市民が理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡県に対し「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
4. 環境省に対し「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ促すことを求めます。

2025年11月23日 第37回和白干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ

第37回和白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。和白干潟まつり実行委員会の皆さまをはじめ、参加者の皆さまにおかれましては、長年にわたり、干潟の清掃や自然観察会など、和白干潟の環境保全活動に取り組んでおられますことに、心より敬意を表します。

福岡市では、今年9月に策定した第三次博多湾環境保全計画に基づき、「生きものの育みと恵みを未来につなぐ豊かな博多湾」の実現に向け、市民やNPO等の市民団体、事業者、行政など、各主体と連携・共働し、博多湾の環境保全の取組みを推進しています。

和白干潟まつりをきっかけに、干潟の環境保全の取組みが今まで以上に広がり、和白干潟の豊かな自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念しております。

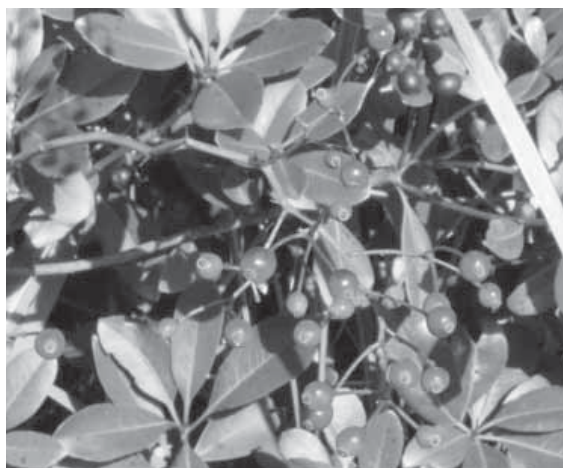
令和7年11月23日 福岡市長 高島 宗一郎

☆ 和白干潟の冬の自然だより ☆

(山本 廣子)

ノイバラ

バラ科



ノイバラの赤い実

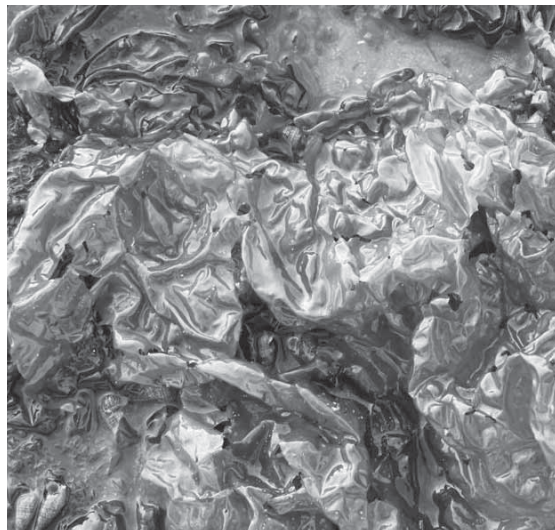
ノイバラは草原や河岸などに生える小低木で、大きな藪になります。高さ1~2mで、葉は光沢がありません。5~6月頃に白色や淡紅色の2cm位の花がたくさん咲き、とてもきれいで良い香りがします。秋に赤い実になります。和白干潟沿岸の樹林帯でも、たくさんのノイバラが生えていて、春には美しい花を咲かせ、秋には赤い実をつけています。春には白い花が広がっていて、遠くからも目立ちます。日本全土にあるそうです。

藪の中にはテリハノイバラも生えています。テリハノイバラは地面を這うように広がります。葉には光沢があります。ノイバラとよく似た白い花と赤い実がつきます。色々な植物が生える和白干潟沿岸の自然を守りたいですね。

アオサ

アオサ科

アオサは和白干潟では1960年代から見られました。福岡市の人口が増えて家庭排水が博多湾を汚染するようになり、博多湾の開発で海水を浄化する生き物たちが減って博多湾が富栄養化して、アオサの仲間が大量に増え異常繁殖しています。大量発生型アオサはそれまで日本に見られたアオサ類と形態と生態が異なるので、新種だそうです。海外から来た大型船に付着して日本に入ってきたのではないかとされています。2020年頃には大量発生したアオサが干潟に堆積して、腐ってヘドロになって困っていました。しかし昨年夏は猛暑が続き、アオサも弱ったのか発生が少なかったです。全国の内湾でアオサの異常繁殖が起こっています。これ以上自然を壊して開発するのを、やめてほしいものです。



アオサ

オカヨシガモ

カモ科 全長50cm



オカヨシガモ

オカヨシガモは冬鳥として和白干潟を訪れます。地味な色合いで、目立ちません。私が調査を始めた1991年から和白干潟に来ていましたが、羽数は多くは無く数十羽から200羽くらいです。小群でいることが多く、大群になることは少ないそうです。浅い所で逆立ちして採食や休息をしています。田んぼでは稲の種子や水生昆虫等を食べていますが、海では貝類や魚も食べるそうです。和白干潟では奈多に多くいるようです。海の広場や唐原川河口付近でも少し見られます。たくさんの種類のカモが飛来する和白干潟は素晴らしいですね。

★ 11/3 アオサのお掃除大作戦2025(1回目) 報告 63名参加

「和白干潟保全のつどい」主催のアオサ回収イベントが実施されました。猛暑の今年はアオサの発生量が少なく、浜辺に打ち寄せているアオサを除けば、沖合にはほぼアオサは見られませんでした。今回は干潟の観察会を中心に、沖合でのウミニナやアラムシロガイ、クルマエビなどの観察となりました。子どもたちも多く参加してくれました。1時間ほど干潟の生き物を観察し、その後浜辺に戻り浜辺のアオサを回収しました。

20分ほど回収した後、集積場所まで戻り、今日の振り返りを行いました。参加者からは、「アオサの回収が楽しかった」「子どもたちと生きものを観られて良かった」などの感想がありました。(山之内)



★ 12/9 九州産業大学特別講義 報告 59名参加



九州産業大学で、和白干潟を守る会山本代表の特別講義がありました。生き物手袋で自己紹介し、「和白干潟の自然を通して地球環境を考えてみよう」と講義が始まりました。和白干潟の四季ごとに観察される植物や生きものを写真で詳しく紹介しました。絶滅危惧種に指定されている種も多く、保護や対応が急がれることや、和白干潟が将来に渡って守られるように、ラムサール条約登録を目指して活動をしていること、地球温暖化や対策について自然を守る活動が必要だと話しました。(田辺)

★ 福岡市のプラスチック分別収集事業の導入について

福岡市では、更なるごみ減量や温室効果ガスの削減のためとして、令和9年2月の正式導入に向けて、プラスチック分別収集の準備を進めているそうです。(一部試験的に実施)

現状ではペットボトルを除くプラスチック類(発泡スチロールや容器、レジ袋等)は、燃えるごみとして焼却処分されています。しかし、これらがごみとして博多湾など海洋に投棄されるケースも多く見られます。福岡市を除く近郊の市町村では、プラスチックごみの分別収集はかなり以前から実施中との事、これらの分別収集で海洋ごみが削減されることを期待しています。福岡市でも、もっと早くプラスチック分別収集を始めてほしいものです。

海洋プラスチック問題は、プラスチックごみが海洋環境に与える深刻な影響について、国際的な取り組みが求められています。プラスチックごみが海に流入し、海洋生態系や人間の健康に悪影響を及ぼす環境問題です。現在、海洋には約1億5,000万トン以上のプラスチックごみが存在し、毎年約800万トンが新たに流入しています。プラスチックは自然分解が難しく、特にマイクロプラスチック(直径5mm以下の微細なプラスチック)は、海洋生物に取り込まれやすく、食物連鎖を通じて人間にも影響を及ぼすと言われています。

★和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!★

・11/23 お菓子のアトリエカノン様よりご寄付をいただきました。

● 気が付いたらあなたも電話してください!

▼海辺のごみやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港曲・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)



** お 願 い! ! **

●干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!

●干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう。

●弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611

092-643-3367

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

福岡県環境部自然環境課野生生物係

●2025年9月

- 9/2 (火) 第37回和白干潟まつり打ち合わせ会1回目
- 9/4 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/7 (日) 秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/8 (月) 秋期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 9/11 (木) イオンイエローレシートキャンペーン
- 9/13 (土) 「山・川・海の流域会議」会議参加
- 9/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 9/16 (火) 和白干潟通信155号編集会議2回目
- 9/19 (金) 秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/25 (木) 秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 9/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/30 (火) 第37回和白干潟まつり打ち合わせ会2回目

和白干潟の2025年 5大ニュース

1. ミヤコドリが過去最高の41羽になった!
2. 鳥類調査で環境省より感謝状をもらった
3. 新規会員が10名以上増えた
4. 第37回和白干潟まつりは好天で楽しくできた!
5. 新会員の人が良く活躍している

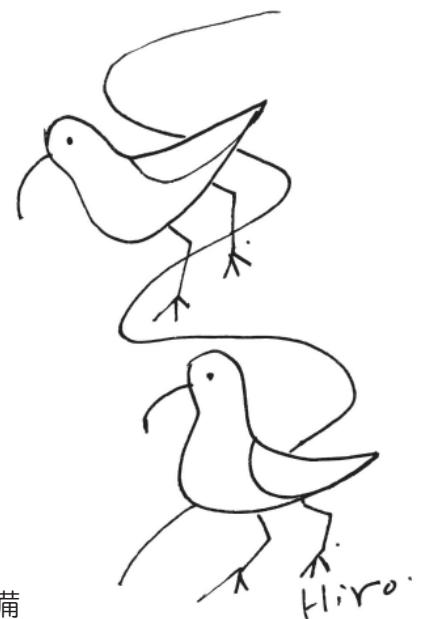
(2025年12月20日の定例会議にて)

●2025年10月

- 10/2 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/6 (月) 秋期シギ・チドリ調査報告書作成
- 10/7 (火) 和白干潟通信155号発送会
- 10/11 (土) イオンイエローレシートキャンペーン
- 10/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 10/21 (火) 第37回和白干潟まつり第2回実行委員会
- 10/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2025年11月

- 11/3 (月) アオサのお掃除大作戦2025(1回目)
- 11/4 (火) 第37回和白干潟まつり打ち合わせ会3回目
- 11/6 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/8 (土) 「山・川・海の流域会議」会議参加
- 11/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 11/11 (火) イオンイエローレシートキャンペーン
- 11/15 (土) ダンロップグループの和白干潟の観察会とクリーン作戦
- 11/17 (月) 久山中学校特別支援学級の和白干潟自然観察会
- 11/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と干潟まつり会場整備
- 11/23 (日) 第37回和白干潟まつり
- 11/25 (火) 和白干潟通信156号編集会議
- 11/29 (土) バードウォッチング in 和白干潟2025(和白干潟保全のつどい)



干潟のつばやき「アサリを増やしたい!」

10年ほど前までは和白干潟にたくさんいたアサリが、近年は少なくなりました。そんな和白干潟で福岡県海洋技術センターの方々が、3年前からアサリの増殖試験を実施されています。毎年、砂利を入れた網袋100個にアサリの稚貝を入れて成長を促すものです。3年経過して網袋内には稚貝から成貝まで一定の個体数が確認されました。しかし天然区域では、魚類(アカエイ)などによる食害で、親貝まで生育できない状況にあります。

今年は天然区域の食害対策として、縦5m、横2mの被覆網を5枚ほど設置するとのこと。干潟に入ると30センチほどの円形の窪みがありますが、これがアカエイがアサリを食べた痕跡で、アカエイは砂と一緒にアサリをすくい取り食べています。被覆網があることでアサリをアカエイからの食害から防止できます。なんとか和白干潟のアサリを増やしたいですね。



アサリ

11/15 チームダンロップ未来プロジェクト(ダンロップグループ)の 観察会とクリーン作戦 31名参加

快晴で微風、暖かく良い天気でした。日本ユネスコ協会連盟の尼子さんからプロジェクト未来遺産運動の説明を受け、挨拶をして観察会を開始。野鳥をたくさん望遠鏡で観察し、砂洲でコメツキカニを見つけました。海の広場の沖でもアサリやオキシジミが採れました。クリーン作戦では、アシ原で打ち寄せた木の枝等の漂着ゴミを回収。皆さん積極的に参加してくださいました。ハマボウやナンキンハゼが紅葉し始めていました。最後に山本代表が、和白干潟の歴史から自然を守るために私たちが出来ることを話し、ダンロップタイヤ九州の村本社長の挨拶で終了しました。有意義な観察会でした。(海野)



11/17 久山中学校特別支援学級の観察会 中学生8名・先生3名・守る会3名参加



久山中学校の観察会は、今回が初めてです。曇空で少し風もありましたが、生徒たちは元気に到着。山本代表が生き物手袋でご挨拶、ガイドを紹介しました。望遠鏡でミヤコドリやシロチドリやカモ、ミサゴを観察すると、生徒たちは野鳥や生き物に興味津々です。沖ではアサリや大きなオキシジミが採れました。海が珍しいと、遠方まで行った子もありました。ソトオリガイも見つけました。漂着ごみを拾い、海の広場にもどりました。最後に、採ってきた生き物を紹介し、紙芝居で和白干潟のことを話しました。子どもたちがとても楽しんでいて、嬉しい観察会でした。(田辺)

11/29 バードウォッチング in 和白干潟2025(和白干潟保全のつどい主催)28名参加

穏やかな晴天でのバードウォッチングでした。海の広場に鳥のパネルを設営し、浜辺に望遠鏡を7台準備しました。干潟には400羽ほど、カワウの群れやカモたちがいました。松本さんの挨拶で会が始まり、山本さんがパネルの鳥を紹介。港湾局の方が野鳥ビンゴの進め方を説明しました。

40分ほど鳥を観察した後、鳥合わせをすると18種類の鳥が観察されました。浜辺から数十メートルの近さでハマシギやシロチドリを見ることができました。「初めて参加し、いろんな鳥が見られて楽しかった」「シロチドリが可愛かった」「日頃見れない鳥が見られ良かった」と、嬉しい感想をいただきました。(山之内)



和白干潟のこと -守る会との出会い-

(松藤 真理奈)

小学生の時、初めて人工島建設の反対署名をしました。大好きな祖父自慢の名島海岸とその夕日の眺望を守りたかったからです。その後1990年頃、新聞などで人工島の埋め立てが現実化してきていると知り、



和白干潟

再度署名しました。埋め立てが確定した時は高校生でした。大変な寂しさとショックとやりきれなさ感じ、署名に力が無かったのだと悲しくなりました。その後、変化する海の景観に絶えきれず、海岸に行かなくなりました。祖父が他界し、久しぶりに実家に戻り海を見た時、祖父自慢の夕景は人工島に架かる橋で消えていました。たくさんの漂着ゴミが落ちている海岸。ふと「今度こそ、自分が行動しなきゃ」と思いました。それが和白干潟を守る会との出会いになりました。和白干潟に行くと今も、祖父の話や教えが再び胸に浮かびます。和白干潟は、大切なものを伝え続ける宝物の場所です。

★新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためによりしくお願いします。

★年会費 個人2,000円、団体5,000円

★郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

★同封の振替用紙をご利用下さい。

※郵便局の受領書を領収書に替えさせていただきます。
※行き違いの際はご容赦下さい。

★お知らせコーナー★

(田辺 スミ子)

★山・川・海の講演会「立花山で日本ミツバチを飼ってみました！」

■日時：2026年1月17日(土) 10時～12時 ■場所：香住丘公民館
■講師：磯野文雄氏 ●問い合わせ：090-2397-1424 (松田)



★和白干潟を守る会 2026年度「総会」を開催します！

■日時：2月28日(土) 12時～14時 ■場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担など、みんなで意見を出し合い決定します。(引き続き2月の臨時定例会議を開催します)

★定例スケジュール★

●定例会議 (1/24, 2/28, 3/28)

毎月第4土曜日12～14時 守る会事務所にて開催。

※ 時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

★和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています！

●クリーン作戦と自然観察 (1/24, 2/28, 3/28)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

※長靴があると便利。駐車場なし。※12月は第3土曜日。

●和白海岸探鳥会 (2/8, 3/8, 4/12)

毎月第2日曜日 9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合 主催：日本野鳥の会福岡支部

参加費：一般 300円、中学生以下は無料、野鳥の会 会員は 100円

★会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

★カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち (その112)

オナガガモ (カモ科 Pintail) 尾長鴨 [全長：雄75cm 雌53cm]



(写真撮影：三宅 僚)

オナガガモは冬鳥として和白干潟に渡来する淡水ガモの仲間です。秋に飛来して越冬する淡水ガモの中では、ヒドリガモ・マガモと共に普通に見られるカモです。オナガガモは早く渡ってきて、最後までいるようです。特に雄は大きくて、首も長く姿勢がいい感じです。水面に浮かんだ時には長い尾羽が斜めに突き出していて、目立ちます。プリッ、プリッという小さな声で鳴くそうですが、聞いたことがありません。

逆立ちして首を伸ばして、水中や水底の餌を取っています。植物が主食ですが、動物も食べます。貝類、虫類、カエルなども食べるそうです。雄は凜(りん)としてきれいですが、雌は他のカモと同じで地味です。和白干潟では多めで500羽位が見られます。(山本 廣子)

守る会問い合わせ窓口

★ホームページ

<https://wajirohigata.sakura.ne.jp>

◎入会／観察会(申込等)・・・山之内芳晴

Tel 090-8412-2663

◎クリーン作戦・・・田辺スミ子

Tel 090-1346-0460

◎広報／調査／定例会議・・・山本 廣子

Tel 092-606-0012

◎干潟まつり・・・松尾 満子

Tel 090-9651-8489



【編集】山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・海野 達巳・松藤 真理奈・山本 廣子
＜カット＞ くすだ ひろこ ★次号は 2026年 4月 発行予定★

【編集後記】和白干潟まつりも37回目を迎えました。長く続けてきたものだと思います。自然を大切にするまつりとして、根付いてきたように思います。多くの方の和白干潟を守る心を感じた干潟まつりでした。(山本 廣子)